

第55回

Road INFINITY ROAD

INFINITY ROAD社は、東京都品川区に本社を置く、株式会社ロードのベトナム現地法人として、2011年にロンアン省のロンハウ工業団地に設立されました。主な事業内容は、日本国内メーカー、中国国内メーカー、小売業のお客様向けの帽子、手袋、トートバッグなどの縫製製品のOEM製造です。今回は、そんなINFINITY ROAD VIETNAM社の田原社長にお話を伺ってきました。

●事業内容

帽子、バッグ、手袋などの製造

●INFINITY ROAD VIETNAM Co.,LTD.
B2-2a, Long Hau industrial parks,
Long Hau Commune, Can Giuoc
Dist, Long an Province, Vietnam

●日本本社

東京都品川区西五反田1-21-7

●ホームページ

<http://www.road1988.com/>



一進出の経緯についてお聞かせください。

弊社のベトナムとの関わりは11年ほど前に遡ります。当時、弊社では、帽子、手袋、マフラー、ベルト、鞆等服飾小物類の製造及び卸売業をおこなっており、一部の製品はベトナムで委託製造を行っていました。元々、弊社はデザインや企画を自社で行い、製造は、韓国の企業に委託しておりました。その韓国企業がベトナムに進出したのをきっかけにベトナムでの委託製造が始まり、韓国とベトナムが弊社の委託製造先となりました。

委託加工先が増えたことで、受注できる母数が増え、日本での営業活動に力を入れたところ、弊社にOEM製造をご依頼



縫製作業(特殊ミシン)

頂くお客様が徐々に増えるようになりました。そこで、4年ほど前から企画からデザインだけではなく、製造までの全ての工程を自社で出来ないか検討するようになり、それまで委託製造先の視察などで、何度か訪れていたベトナムが、人件費やインフラなどの条件面で弊社の希望にマッチしており、委託先の工場で働くワーカーが皆若く、真面目に仕事に取り組んでいる姿を見て、ベトナムへの工場設立を決めました。

ベトナムへの進出に当たっては、それまで視察の際などに通訳をしてくれていたベトナム人がアドバイスやサポートをしてくれましたので、比較的スムーズに進めることができ、2011年にロンアン省のロンハウ工業団地内のレンタル工場にベトナム法人を設立することができました。

一業務内容についてお聞かせください。

ベトナム工場では、帽子を中心に、手袋やトートバッグなどの製造を行っています。帽子の製造と聞くとただ縫製作業をするだけと思われる方も多いのですが、単純な縫製作業以外にも帽子の形に

よっては専用のミシンと熟練した技術を要するものもあります。また、縫製作業以外にも帽子の型を作るためにプレス機を使用したり、レーザー裁断機を使用するものもあり、縫製作業以外にも様々な工程が必要です。

弊社は、日本のお客様が多いので、納期をしっかりと守るため、機械も故障の少ない、日本製の機械を導入しており、設立から現在まで、機械の故障で製造が止まったことは一度もありません。

また、使用しているミシンも、標準の1本針ミシンからヘリを縫う場合に使用する2本針ミシン、装飾や、裏側縫いを振り糸の中に包んですっきりとさせる為の3本針ミシン、帽子を立体的に縫うため置き縫いをしないときに使用するポストヘッ



圧着作業



プレス作業

ドミンなど、様々なデザインに対応できる設備を取り揃えています。

最後に人の手により、ほつれなどを綿密にチェックし、帽子専用のプレス機で形を整えます。この帽子専用のプレス機というのはわかりやすく言えば、帽子専用のアイロンです。この帽子専用のアイロンというのは、弊社のような帽子を製造している企業にしか用途がないため、日本でも50台程しか製造されておらず、そのうち2頭機と言われるアイロン部分が1台に2つ付いている機械を弊社が保有しており、アイロン後も、シワや型崩れなど起きていないか綿密にチェックをしてからお客様に納品しております。

ベトナムで事業を行うにあたって苦労されたことはありますか？

現在最も苦労しているのがワーカーの雇用です。弊社の様な縫製業では人件費が大きな割合を占めますので、現状の価格で製品を提供していくためにはどうしても最低賃金に近い金額での雇用が必要となります。しかし、近隣に最近入居した外資系縫製工場が、最低賃金より2割程度高い給与で採用を行っており、ワーカーがそちらに大量に流れてしまい、最低賃金では、人員の確保が難しくなっています。この状況を改善するために、ホー



工場内の様子



工場様子

チミン近郊都市で場所を借り、ミシン数台用意をし実際に縫製作業をさせながら人材教育を行い、その人材を工場で雇用できるような仕組みを構築しようと現在同じ縫製関係の企業と相談しています。

ベトナム人スタッフについてはどのように評価されますか？

現在弊社では常駐の日本人1名を含む約30名の社員がおります。縫製業ですので、女性の比率が高くなっており、事務所スタッフなども日本人以外は全て女性ですし、工場のほうも約8割が女性となっています。

ベトナムの女性は、非常に真面目で手先も器用ですから、弊社の様な細かい手作業の仕事には非常に向いていると思います。力仕事などは男性社員が行う必要がありますが、それ以外については今後も女性社員を積極的に採用していきたいと考えています。また、男性・女性社員とも得手不得手はもちろんありますが、基本的に全員が自分の仕事をしっかりと把握しており、責任を持って取り組んでいますので、非常に助かっています。

私も積極的に従業員とコミュニケーションをとりたいと考えており、定期的に現場へ入り社員に声をかけるようにしています。ベトナムでは社長が現場に入って社



型入れ機

員に声をかけたりするのは、あまり一般的ではないようで、皆驚いていましたが、やはり現場で接することで、より社員との絆が深まってきたように感じています。

今後の展開について

2015年1月に東京ビッグサイトでファッションビジネスの総合展示会 JFW-IFF が開催され、弊社も協力会社と共同で出展を予定しています。IFFの展示会に来ることが御座いましたら、弊社はASIAエリアにブースを構えておりますので、お声がけしていただければと思います。

また、弊社はベトナム国内での販売は価格的に難しいと考えていますので、今後日本での営業活動を積極的に行い、ベトナム工場を有効に活用していきたいと考えています。

—ありがとうございました。



縫製作業